

森林の強度間伐による効果のモニタリングについて

1 調査の目的

「あいち森と緑づくり事業」のうち森林整備（人工林整備）事業の事業地及び森林・林業技術センターの試験林内等において、スギ・ヒノキ人工林を強度間伐した後の下層植生の発生状況等を継続的に調査し、その効果を明らかにするとともに、調査結果を用いて事業及び事業実施効果を広く普及啓発する。

2 調査等の内容

1) あいち森と緑づくり 森林整備（人工林整備）事業地の実態調査

奥地及び公道・河川沿い等の人工林整備事業地において、試験区を設定し、樹高や胸高直径を測定するとともに、土壌や植生などの状況を調査する。

2) 植生等動態モニタリング

森林・林業技術センターの試験林内等において、標準伐期齢以上の人工林で、強度間伐実施後海苔網設置区、強度間伐実施区、対照区の3区の試験区を設定し、6月と10月に実生植生を個体識別し、その後の成長や消長を調査する。

3 調査の実施状況（植生等動態モニタリング）



対照区



処理区



調査区



No. テープによる個体識別